

探究の ここまで

データで
見る

大学から社会までつながる
探究での学びの近況とは

以前から学校現場で「総合的な学習の時間」に取り組むなか、「探究」という言葉が聞かれるようになった。2010年代から学校独自で課題研究などとして、生徒が自らの興味関心から立てた問いについて教科横断的な方法

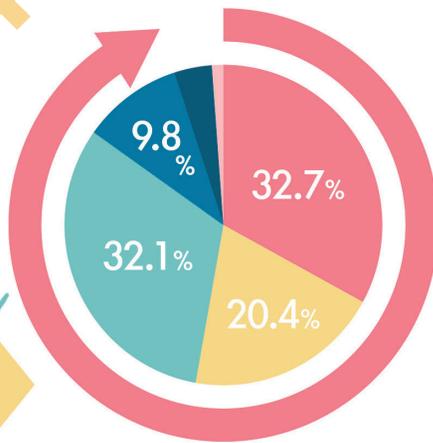
学習指導要領改定によって「総合的な探究の時間」が本格実施されて2年が経過。進度や深度はそれぞれですが、全国の先生たちや生徒自身はどう感じているのでしょうか。高校の入り口である小中学校や、出口の先の大学での捉え方など、探究を取り巻く「近況」をデータで見えていきます。

「総合的な探究の時間」の 取り組み方は？

2022年の調査時点で「総合的な探究の時間」を導入している学校は94.9%に及び、そのほとんどの学校が学校全体や分掌主導、学年ごとなど組織的に取組を始めていた。組織で取り組むために、分掌に「探究部」ができた、探究担当の役職を設置する学校が増えている。

導入しているのは

94.9%



- 学校全体で組織的に取り組んだ
- 進路指導部等、分掌が主導で取り組んだ
- 学年や課程・学科・コース単位で取り組んだ
- プロジェクト等、一部の教員で取り組んだ
- まだ「総合的な探究の時間」に移行できていない
- 無回答

Theme 1

高校の先生に 聞いた、 探究の“近況”

「総合的な探究の時間」での 生徒の変化は？

(「総合的な探究の時間」導入校)

「総合的な探究の時間」の取組によって、学力の3要素や育成すべき資質・能力について、「主体性・多様性・協働性」が向上したと感じている先生が最も多かった。フリーコメント欄にあるような、生徒、教員それぞれの変化、発見を感じている先生も少なくない。

教員から見た生徒の変化

- 生徒の姿勢が前向きになった。調べて発表することで、与えられたテーマへの理解を促すだけでなく、ほかの生徒の発表内容にも注目し、自己との比較を経て自分のものに取り込もうとする姿勢も見られた。[東京都/国立/専門学科]
- 自分の進路目標への興味関心を深めた生徒が少なからずいた。[岐阜県/県立/普通科]
- 地域の多様な方と関わる中で視野を広げることができている。体験、実践を通して気づきを得て自信をつけている。[岡山県/県立/普通科と他学科併設]

教員自身の変化

- 特に地域に関わる内容に関して、生徒と同じ目線で興味関心をもって取り組んでいる。教員も生徒たちも知るということに積極的になってきている。[秋田県/県立/普通科]
- 学年全体で探究活動の補助・指導に当たることが当たり前のこととして定着した。[岩手県/県立/普通科]
- これまで調べ学習が中心であった総合学習の時間だったが、教員が生徒たちに考えさせること、丁寧に振り返りさせることをこれまで以上に意識するようになったと感じる。[京都府/府立/普通科]
- 学校外との関連・ミッションや、授業分野以外の研鑽に費やす時間が確保できにくく、一部の教員に負荷がかかっているように思う。[大阪府/私立/普通科]

※末尾カッコ内の表記は [都道府県/設置者/高校タイプ]

主体性・多様性・
協働性が向上

61.3%



思考力・判断力・
表現力が向上

53.1%

学びに向かう姿勢・
意欲が向上

44.0%

基礎的な学力(知識
および技能)が向上

22.6%



で解決策を探し、自分の考えをまとめる探究学習に取り組み始めた高校もあり、「総合的な探究の時間」と名称が変わる前から小誌でもたびたび先進校の実践例として紹介してきた。

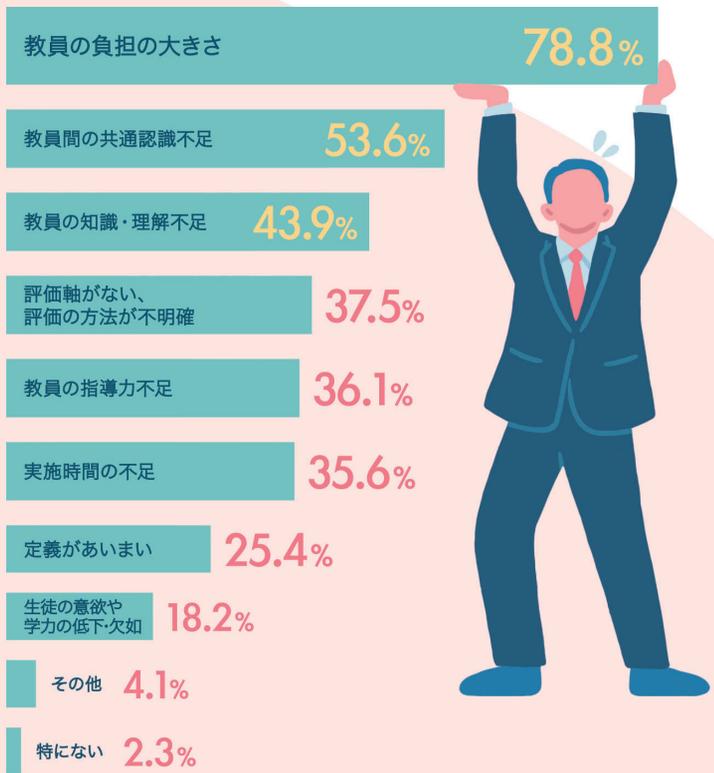
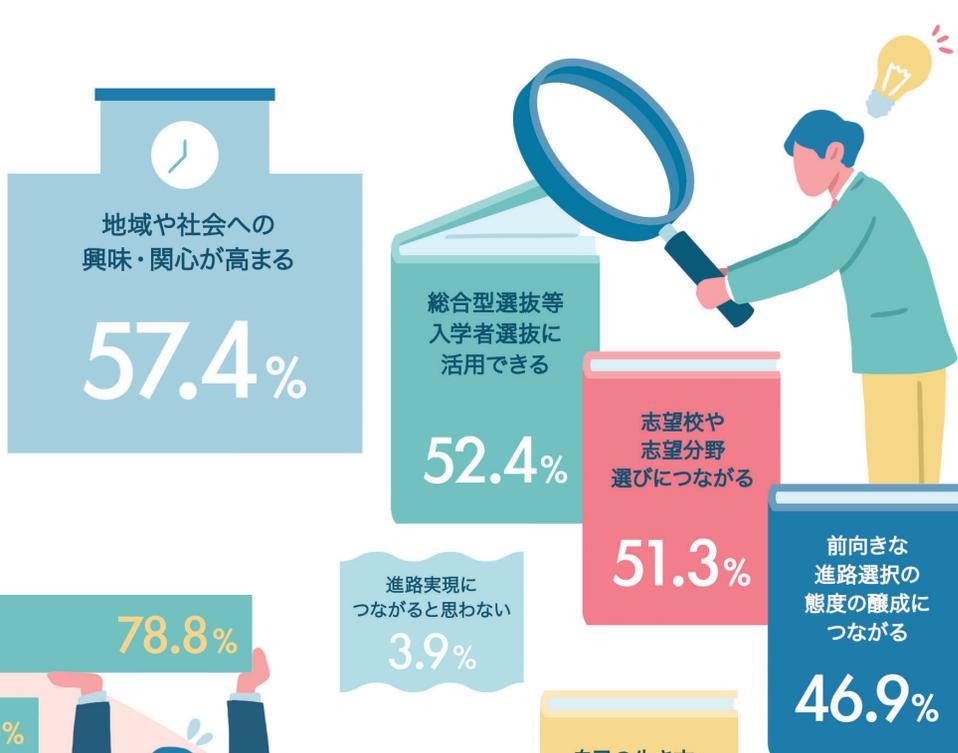
そして新学習指導要領が実施され始め、その下で学ぶ生徒たちが3年生になった今、改めて探究活動がどのように学校現場に浸透しているのか、先生たちは何に悩み、生徒のどんな変化を感じているのか、また探究学習で学ぶ意義についてデータを基に考えてみることにした。

ここで紹介した数値には表れないところでも、探究科や探究コースの新設情報を目にすることも多くなったのではないだろうか。大学の入試でも総合型選抜のなかで特徴ある探究入試を実施することで、より生徒が学びたいことと自学の学びのマッチングを図ろうとする大学も数多く存在し、今後とも増えていくことが予想される。特に国立大学での総合型選抜の増加は、従来の知識もおろそかにすることなく、幅広い資質・能力や学びに対する姿勢が求められることを物語っている。それは言うまでもなく、大学の出口である社会が求めている力だからだ。

全国の先生たちの思いと共に、学びのこれからを考えるために、探究の近況を見ていくことにしよう。

探究活動は、生徒の進路選択にどうつながる？

ほとんどの学校の先生が、探究活動が生徒の進路選択へつなげると考えており、回答選択肢のいずれも半数前後に及んでいる。なかでも「地域や社会への興味・関心が高まる」が最多で、生徒が実社会とのつながりを認識しやすい学び方が探究活動だと捉えられているようだ。



取り組むうえでの課題は？

先生たちにとって従来の教科とは異なるアプローチが必要とされる「総合的な探究の時間」についての課題は、「教員の負担の大きさ」が群を抜いて最多だった。自身の担当教科プラスαの仕事と感じて模索中の先生や学校も多く、生みの苦みの時期なのかもしれない。

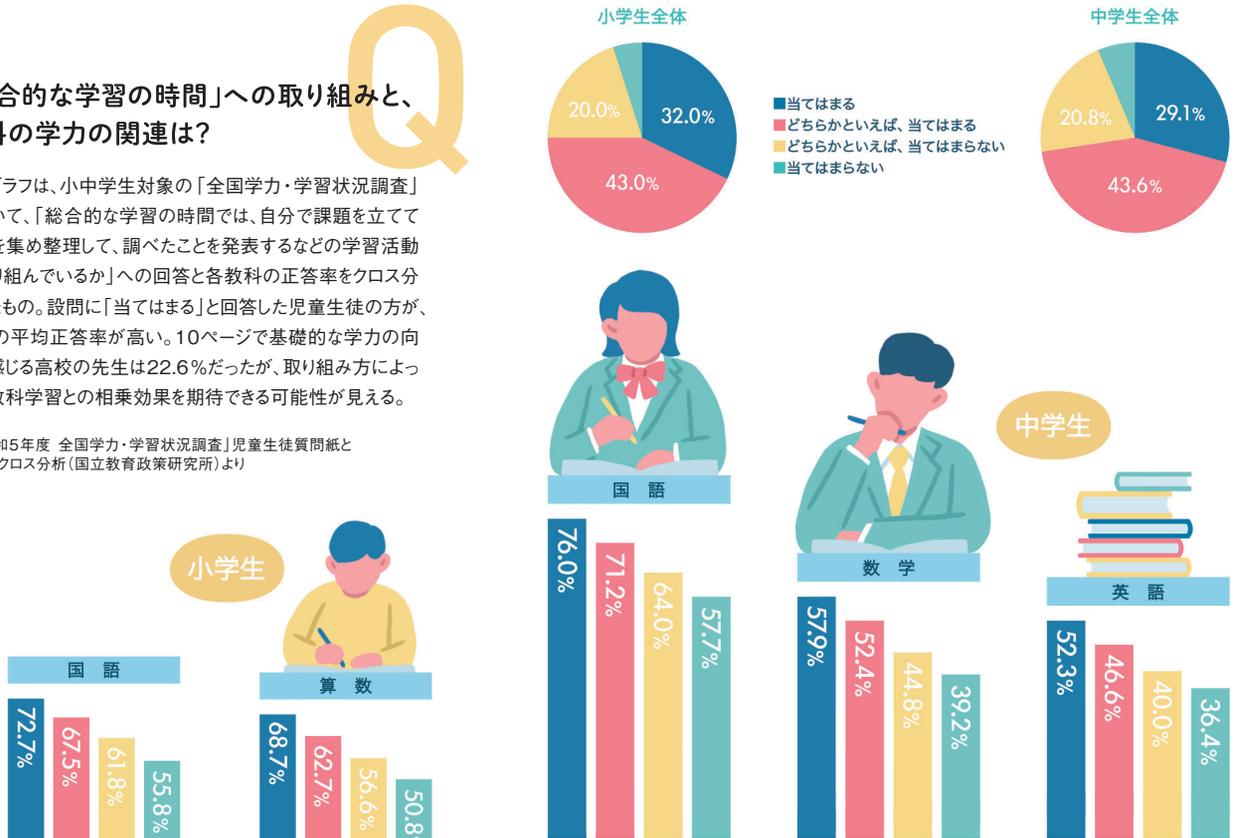
※株式会社リクルート「高校教育改革に関する調査 2022」報告書より編集部にて再構成

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか

「総合的な学習の時間」への取り組みと、教科の学力の関連は？

このグラフは、小中学生対象の「全国学力・学習状況調査」において、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」への回答と各教科の正答率をクロス分析したものだ。設問に「当てはまる」と回答した児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い。10ページで基礎的な学力の向上を感じる高校の先生は22.6%だったが、取り組み方によっては教科学習との相乗効果を期待できる可能性が見える。

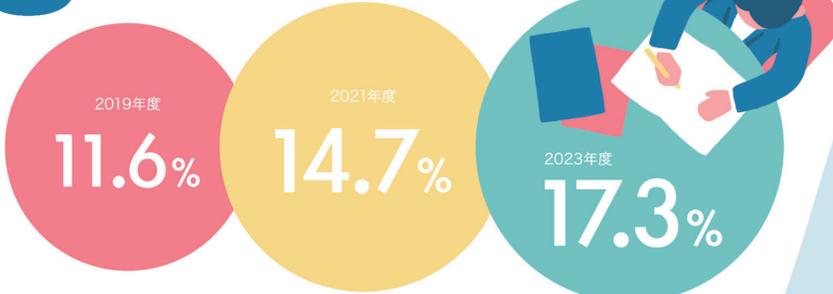
※「令和5年度 全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙と学力のクロス分析(国立教育政策研究所)より



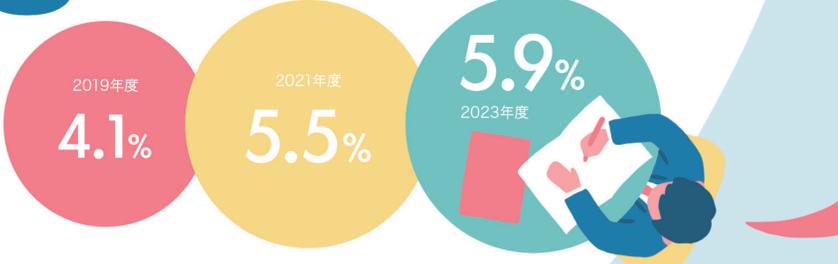
Theme 2

高校に入る前はどうか？ 大学は探究をどう見ている？

私立



国立



総合型選抜実施大学(2023年度)



探究活動と 大学入試の関連は？

現在は国立も含めて大半の大学で総合型選抜が行われており、高校時代の探究活動をその評価対象としている大学も増えている。さらに総合型選抜による入学者比率も増加傾向にあることから、大学が探究活動で育まれる力を重視し始めていることが読み取れる。

※令和5年度国公私立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要(文部科学省)より

大学では総合型選抜を実施する大学数も入学者比率も増加。探究活動が入試でも重要視され始めている!

Theme 3

生徒たちは 探究に 期待している!?



学校では探究学習が重視されていると感じている?

自身の学校で探究学習が重視されているかについて、2019年の調査では感じている生徒が半数以下だったが、年々増加傾向にあり、2023年の調査では6割以上が重要視されていると答えている。生徒たちも自分たちが身につけるべき学び方や学校の変化を確実に感じ取っている。



探究学習が重視されることに期待している?

探究に対して教科での学力とは異なる能力が養われることへの期待をフリーコメントで回答する生徒も多く、探究学習が重視されることについて「期待できる」と肯定的に受け止めている生徒が64.7%と、生徒たちの探究への前向きな気持ちが数値でも表れている。

「総合的な探究の時間」を通じて自己理解が深まったと感じている?

「総合的な探究の時間」を通じて「自己の在り方や生き方、興味関心への理解が深まった」と答えた生徒は26%。「総合的な探究の時間」がスタートして1年半経過した時点で1/4の生徒が自身の変化を感じられていることは、今後の効果を期待できるのではないだろうか。



探究で自己理解が深まった生徒たちの声

- 探究活動についてプレゼンテーションを行ったのだが、その場面の発表で、自身がプレゼン資料を作るのを得意としていることを実感した。[宮崎県/女子/大学]
 - SDGsで水の問題について考えたとき、自分には何ができるのかや、世界の深刻な状況を知ることができた。[秋田県/女子/専門学校]
 - 話を聞くだけではわからなかったことが、自分たちでなぜそうなるのか話し合い答えを見つけることによって、知識が定着した。[奈良県/女子/専門学校]
- ※末尾カッコ内の表記は[都道府県/性別/希望進路]

全国の学校で取組が始まった探究の近況について、現場の先生たちは今までは異なる生徒の成長や変化を感じ始めていることがデータでも見て取れた。その一方で実際に授業を行ってみて、負担感や自身の認識不足などを抱え、混乱している学校もあるかもしれない。

今一度、原点に立つと、「総合的な探究の時間」がカリキュラム化された背景には社会の変化があり、求められる資質・能力の育成のために、今までとは異なる学び方も必要とされていることは先生たちも認識のうえ取り組んでいると思う。さらに、学びの主役である生徒たち自身が探究活動へ高い期待を寄せている。改めて、学校で探究活動を行っていく意義や、社会とのつながりについて、次ページ以降で具体的に考えていきたい。

※一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルート合同調査 第11回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2023年報告書より編集部にて再構成